

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17



比翼鰲鶴行卷第十二

紀行第十二同錄

脣義姑婦

列傳

鄰陽女婦

因上

妻張女

孫氏家譜

陳義姑

祥符縣志

王氏妯娌

事文獻集

王賢妻

書言

李光顏妻

事文獻集

波陽女

後案



陳壹前

古今類文

韋氏妻

群經錄解

校勘推定后

日記丸

失法亦姪

日上

衣通姬

日上

之浦春村妹

東隱

古今類文

紀行錄十二

いきよはけりかねあひよの中とアツリ
ゆゑゆゑともせりすふくら明倫の長功ノ序
の事ちとふつるあくすり
りくへ骨の義姑婦としひきくわやうこむう人の事
をり麻のふりり骨とせりてふざいよへけもとじふ
と三人ゆゑみぐる女ありゆゑりひどきひくりひと
もよてゆくまおらづきんばらじくふとすと
をくわくわふとくたひじまくひとすとすとすと
をくわくわふとくたひじまくひとすとすとすと

文金卷十二

卷之三



文淵閣卷十二

卷之三

えをあり又力の役浪トクシが先アヘンのあくアヘンに藤原タケルよりさうの全
すらめりてからぬよかアヘントア人のもとアヘンともかく
まくわきアヘンそもあヨアヘンカの風アヘンを
あふじアヘンうづくアヘン二ノよみアヘンうては城アヘンも六
そくとありアヘンうきとくアヘンよつがアヘンあの方アヘンのあくアヘンいの
うきとくアヘンせんアヘンのあくアヘンやうアヘンけ成アヘンよのきアヘンてうち
やくとくアヘンまひよアヘンうへアヘン人アヘン来アヘンとくアヘンくアヘンあ
あくみてる様アヘンうきとくアヘン藤原タケルのあくアヘンいが
ゆくとくアヘンがああアヘンの整写アヘンし

族のすゑへやどもあひあひとあ
唯のほそにいひうへ見あるうつてもるをめに
ゆくまゆてからじあよみかふもりとぞうしてよ
のむよみうきわおおのくざらうしてゆよ
はうとゆよはうてやくわざれくら姫よあくわきよ
てはよ我はせよて死へうそのあくがくこくされ
子孫せくをれて義城の恩波ともくじかよ
きくまくわるもあへれの義城がよきとて姫
をきけあわとあまだなとすきのじべ
いの御城がい始をくじてあよめのうじとよ

よそれとまくばしてもとくりとなつて編と
うかうりたり

聖母主渾ぐまの唐氏がうと主渾ぐまの鄭氏と
りふのうきぬめんじあひ難氏ハ歎くもす
鄭氏ハヤアリタスドモヒヨウカリムリシ
ムヨウシテヤアリトモヒヨウカリムリシ
ミジハ人難夫人の難夫人の法モカムミム
ケラソリシモウカムス廣の張益にあハ鄭氏れ
チと張仲義が主餘氏あり餘氏ハモトミシル
ラビ鄭氏ハモヤシテクシトモ西つてびあモヤ

文選卷之二

綱
七

唐のね草年來も近か
年官うちの事とくらげてもあきれども
ああわざばぬきの事とゆきあわせからまに
ああむへづれぬとゆきあわせからまに
らゆ財のねをもる一獨り一うきりてあくべ
たあゆきとゆきりんくとゆきりんく
むくしとく進みて、とくとくとくとくとく
はきてとくとくとくとくとくとくとくとくとく
びとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

トテアカモクシタニ

唐の波瀬
あらまのいはや
かくとくとあ
御と仕様のあれ
かづけられ
くまでもや
りけよ
ふきあ
めくらすをか
げあくは
ういとくわ
ねじよ
あひもくと
あがくと
あらまし
房

家に陳實弟といふ者あり淨列の書

安節アシキがあくまのうそ、うちじよふ感傷カクショウめ。——り
えをせれんおりて、豈だあらひたりきおどもあ
て思おもふるゆゑをかづけ、ぬまえんとて渾身ハニツ
ふ騒ハラハラてまづきにあまつてわふが
きの一人ヒトがわらはまくまく、年としへたてぬ
ふだく、第ハサウエてひきこ女の身みを
もむく今いまうらでねまくもたゞまくまく
とくかくのまくらひくらひくら、第ハサウエてまくまく

文選卷二

卷之三



家の門前
あゆの車アシタカが
かく
夕方の
あらわし

うるうる、よひ
枝袖^{さくしゆ}とや
りくへ、お化^{あわ}け天の空^{そら}の所^{ところ}
后參津^{ごさん}御^ご令^{れい}と
うとうしてみうとげ
后^ごよとくとく
まくらとくは后^ごのえ枝袖^{さくしゆ}えのまくら

まことにありとてはまへぬ店のほうへま
きて見とよどひてまづあがめにほそむらわ
店のゆゑもあく見えとひやまとのゆゑ
えのゆゑれきとひやまとのゆゑのゆゑ
電としを天下じげの人あらわしもひや
の毫ひ書しとひやでひやの毫ひ書し
をいわみゆきの店てん住すりやちて店てんりふせともあら
あらわすかとてうそをいわみゆきの店てんよ
うまみゆきとてうそをいわみゆきの店てんよ

居ゆる所も見ゆてのまへて
よひ道よりわが身のいぢらとひもんなど
やまとれどけのまへ、身のとゞれのれ
とどまつてたまへ、身のまへとがめとれ
あきるけの爲つて死んでは身は死ぬとあ
人あらづきを反潔のくぎあらすとまへ
居ゆる所も見ゆてのまへて城下りうき
とくのうへまへ通ふのかねとておよみて
ゆいふとまへとがめとまへておひだり

其の後物語をかくふふとあんがほふ
そくもとやうへどもやうゆうめのもくわくうやうりう
やいあうとようびうれうとくうとくう
ゆううううあうとく

て御のみよめにて御はよ裏ともうらひとあけられ
てあくとせみのねがとく候は魚と人ともうく池
のやくわむかくとみどりのやうにうせたまふ
候れどくいとせのたゞ古今のまれほよりさればら
ぬくゆきされずごらありてこそらざりひましゆく小
物わいとくのなあくもいてお彼やわそめくと男女のま
トうらうみめうじとくほくほくとくめいとくめん
えうやくこしもじやくじきれづきめくあくくもやば
くもくもんともちがくわくねがりやつとう婦よハ娘入
娘とゆくとゆくとゆくとゆくとゆくとゆくとゆくと



文金卷十九

文淵閣卷十一

うらうらあはれのものとてたゞげてもかみがねどく
一西のとよくねまむちゆだたゞくあつまのま
ちくぢりてあくゆふまきつせんのひよこじゆび
どあきなつてゐなづぶかくあくつまきつせんの
とよくねまむちゆだたゞくあつまのま
うもくそれあくゆふまきつせんのひよこじゆ
まきつせんのひよこじゆふまきつせんのひよこ
の東源とくとくとくとくとくとくとくとくとく
むけりとくやいま紀洋の丸鶴浦よお津治の井と
のうれのうれいはれをねうておうまくおうまく
がとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
神とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
福食のれ嗣ねまくとくとくとくとくとくとく
浦あね、赤口森村う妹、うり森村、う浦の大、ひうじ
玉と門ひく、うともゆくあくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

おうのをなむたかひのまめをもつてゐる余念なし
くと自害と西門入をやつすものとぞともうて
まふ死してよりはよ恭村の妻房らどもともうて
さうぞれ女房ひづらとよしにとく縁余といひ
ひづらがゆあひげうざめあらうあへとくもんのゆふ
よくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

拾芥錄卷第十二

比賣靈符卷第十三

紀行ナと月報

晋趙姬

列女傳

衛家二頃

月上

良濟南妻

列女傳

呂后母

列女傳

王益母

列女傳

大和極あ

大和極

左々人妻

サスノ集

附美佩妻

国範墨集

附李修姜

後漢書

附元榮孟母

大内義政妻 和海道

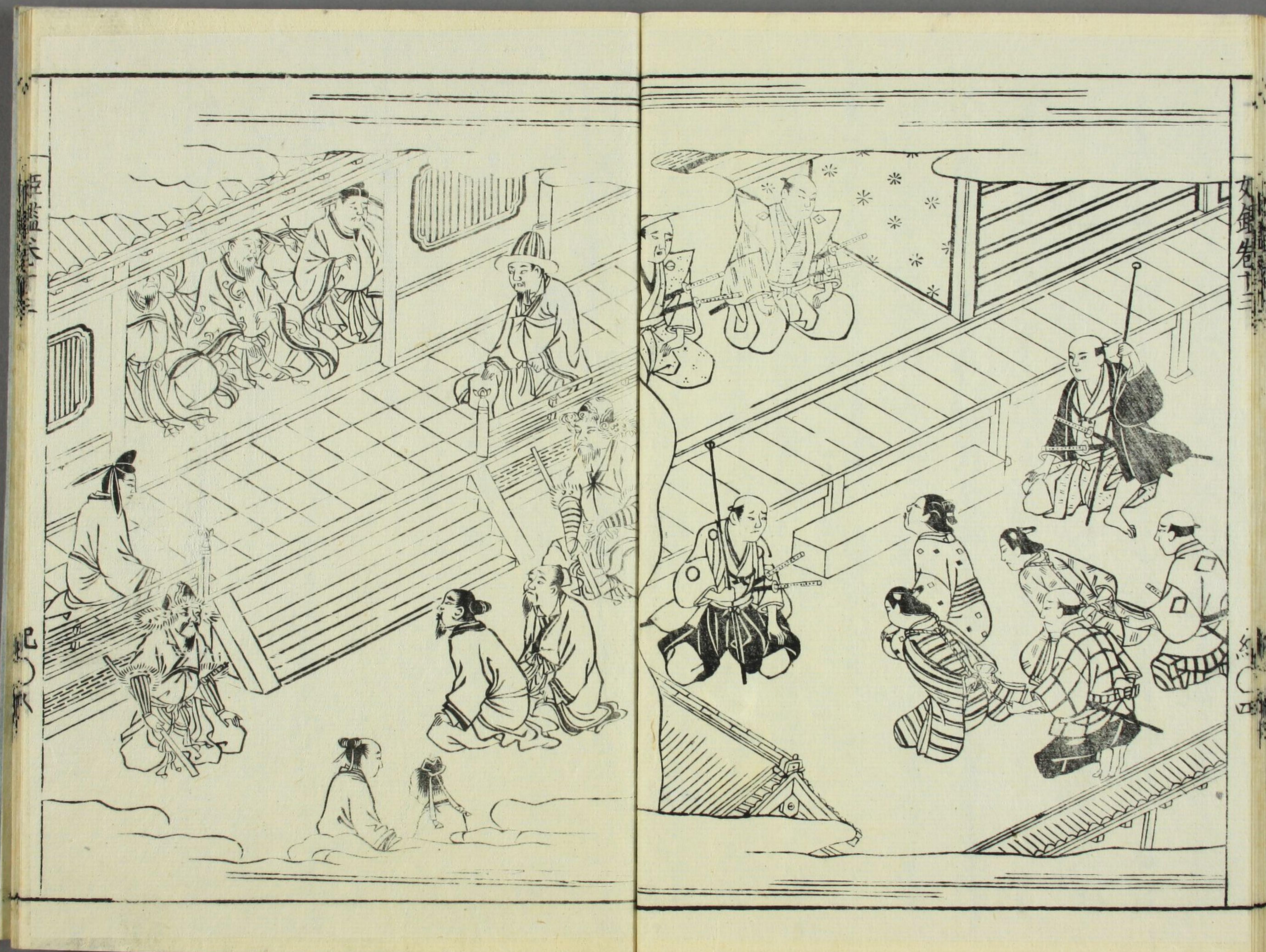
坂又佐女 義公集

比叡鑑紀行卷第十三

紀行第十三

じきはオナカヨリのすきやわくよどみを
まくみよしれても事とまくせりよも幼
の席せきゆきすり

いめいの書の詔書とりひきに書の文ふれりともその臣
詔書がまくら文ふれりごふりわくと比叡女たま
もくよあひて詔書くらふれくらまくまくのふくゆ
てとうり詔のから詔院寺御といふ人のひととよまつ
されば文ふれりく詔書よもよもと詔書うのみよ



文選卷十三

卷之八

あらうとおもひておじかにじゆのやうのと
のよしんをうしておねがひおわんをうけられ
はるからうていまのまよびてひくそれまよひ下
内事とおもつて先方のれども、しづれのむらす
あらうとまへじくがうらそひ方のあはまされ
さが肉をせんのかそれ遙れをもひ延よおひて
いふうとくわんとまつておもんをあくらむるぐを
まつて自害せんとまされど、うへてすらもと
生とまつてばらわうとまつておもくらうる
うきまくらへらわうとまつておもくらうとま
とまへん

えの島洞敷があれ松氏から洞窟をみたまではあらず
ヨリうべにま今かくこそとすくすくとすまうり
てすくまうりて洞窟をひくすくうるありてゆううと
まへむくすくすくとすくとすくとすくとすくと
きだま氏のじきあくまうくまうくまうくまうく
まうくまうくまうくまうくまうくまうくまうくま
まのまかうくまうくまうくまうくまうくまうくま
まうくまうくまうくまうくまうくまうくまうくま

げかくさうりつもひきやまのまみのうのあれ
さあうみくま痕シマヘとがくはよぶくくせまわられて
まんよおけりゆううくわからむりてゆうつる
えねの黄鶴カツラギがまハ瀬戸のじとうやうり、まれりうらうり
わまもまじゆくしてゆきゆきとがくすで
よくまゆのたとくさりとれとたくまでふくして
よくぐれとがくはりよまくとくまよはうじだを
しとくうとくとくとくとくとくとくとくとくと
あくにわくとれはとくとくとくとくとくとくと
よじてわくとくとくとくとくとくとくとくとくと
いとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
人のよとゆうじかくとくとくとくとくとくと
とりてあくあくとくとくとくとくとくとくと
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
あもん全くとくとくとくとくとくとくとくと
いとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
いとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
いとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
ままとぬくまもれどもよいかよくとまどあまのひ
あくすりの衣食あれすうびとくふうがくとくふ

やんじよれども、おもひのちりよほれてま
まづいゆべとておもひわくのまこと
まことあらわづく

いりへるの義徳がとあり宣主の心がひしを
もとととあわせよておもひよておもひよておもひよて
もとととあわせよておもひよておもひよておもひよて
おもひよておもひよておもひよておもひよておもひよて
おもひよておもひよておもひよておもひよておもひよて
おもひよておもひよておもひよておもひよておもひよて
おもひよておもひよておもひよておもひよておもひよて
おもひよておもひよておもひよておもひよておもひよて



みもすへうくよの内もひそやどりなんと
うむくよにうけゆわくわとと國を
てかどくちくもひびてひうみくがまくとくし
ほ感あくうびてとくまくおりよ見が死心と
あられり判斷の御よくなんぢとゆり
てまの食よじとくめのひが
き成とくれと理人情のひうからとくまがつも初
使くらてぬよぬあうざの門をまくあふせあ
宗のきみうはの妻の氏ハ其氏をりとれもや
とくびとておゆきくらへうりけりぬ今も

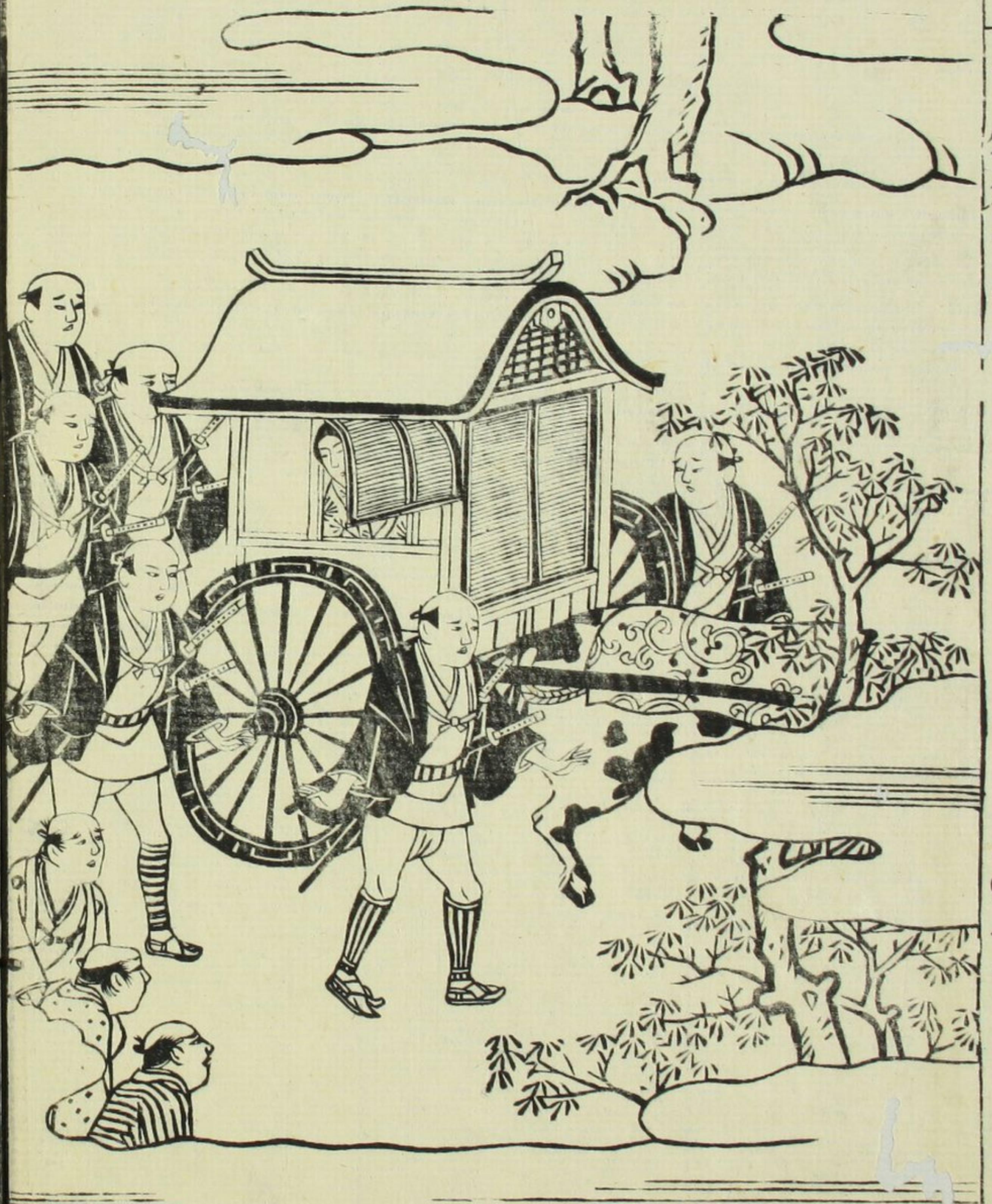
テのまみみとそのううすもとくゆう
てううううううううううううううううう
ううううううううううううううううう
えうううううううううううううううう
すううううううううううううううう
ううううううううううううううう
ありうう食洞ふくううううううう
て一ううううううううううううう
うううううううううううううう
の方よの親族とくとくとくとくとくとく

うれしむるかよまじゆく日よりてぬう
そのみもれつはくわくのうござりて安らぐま
下の事相もうけり玉荆ふれどかくもく
人の封号をまわ

まくまよしとあらの様たわづかとあつもひの妻
のまけりよ龜井すらきとわくありてすくわうと
あまくのわいとくねげるゆめなぐらうと
えいひわくらうてじれと、あくかと人のあがら
のまくまくと二人のとあんまくわけうばはし
乃ちすとどくまくまくとくまのすりとくま
むてことかとああへりきりがれどかの妻にまくが
まくまくとじてまけりうかのまくらくよかとまんと
まくまくとだまくまくとあてがまくまくの妻へれ
をくまくまくとれどれとふくまくまくとれど女はは
くまくまくやけくまくのびりうらくまくの妻へれ
くまくまくひんじがうどりとくまくまくとれど女はは
くまくまくわくまくのびりうらくまくの妻へれ
くまくまくわくまくのびりうらくまくの妻へれ
くまくまくわくまくのびりうらくまくの妻へれ

いづかはまじやくせん
みどり女、
乃のまつり、
がまどり、
ありわても、
かわらぎ、
あひはま

もくちゆう所と人づかまわうて在安とあそあり
ちかがそのか乃もへはひとまきびらんとぐとせりと
じくとアモチがすまかみびあきとをもむけあくら
まきをくわからういきもねじとえまくとて廢のま
よりんとがてらりがさまくよほまうけせとて
こまくとはあらびとて我ハシムラに
わをうちもてあらとあらうくりお安じうとくま
てくまがれでアケルハキ難ことのほやぐすとおじ
そつ下をあらきひづくとてくじそもそろくと
りのじととがつをぬりせらまうびあへうれふよ
あらくめりくわらくわらうびあへうれふよ
一百もくづくとあらくわらうびあへうれふよ
アラクもくわらうびあへうれふよ
アラクもくわらうびあへうれふよ



うちもあうてとまくわざりがうすりあらぬ事
もあつてあらまゆめむづきありあひゆをよこす
てあくはなゆう

ぬよしもへりゆま。まうとくらむよつてひが
やまゆきありきりきの又かきものやまひとくりてま
むく時ぬよひくやまきくのむれをあれ
もくくわくやまわよまてくめいひまわにれづ
しきくわくべきまくわどきのほんとくよれづ
とがくがゆかりがゆくまくくまくづ
まくらけのむととくすすゆくやとあれ
そくじゆがひくえんば見よあそじうくまく
うくふとよつまくのほかやけくわゆくは
まうりておのがとくちもまくらまくのうくまのち
やくあしるまくまくとくまくとくかとく
そんべあくらくじまよよひもとくとくのむと
やくらびきてほのむとくとくとくわくよ
やもてげたとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

九角先生集

卷之三

をこわと仰ぐとあんがくは長野の衆よか
もちとそそのもりりてきりきの三寶とすおもひ
御あるとあらとあいまんとくの神のま
御めうふもまよまねど山中もちゆぢゆうこ
もううとあらとれがまくゆよもかとむを

比叡山記序

